

中国 台湾 韓国 インド携帯電話四半期出荷動向

2009年3Q(7-9月)調査結果概要

各国別の3Qの概況

中国

外資では Samsung、LG の韓国勢が 3Q で大きく端末出荷を伸ばした。特に Samsung の惠州工場は出荷量を急速に拡大し、3Q ではほぼ天津の出荷規模に並んだ。Sony Ericsson も ODM 発注を事実上停止していることから、同社の中国生産拠点の出荷量は増加傾向を辿っている。

中国国産メーカーは国内向け、輸出とも出荷を伸ばし、国産メーカー全体の出荷量は前期比 22% の大幅増を達成した。

国内では China Telecom が EVDO 端末を投入のほか、PHS の巻き取りからローエンドモデルを大量に調達し、インドと並びワールドワイドでの CDMA 需要を支えた。小零通は四半期ベース平均で 500 万件前後累積加入を減らしているものの、9 月末で依然 5,000 万件以上の累積加入を抱えているため、セルラーシフトによる買い替え需要は 2011 年まで期待がもてる。

China Mobile も次世代 TD-SCDMA は 8 月の 6 万台に対して 9 月は 14 万台に販売台数を伸ばし、離陸の兆候を示している。TD-SCDMA チップセットを供給する国産 Spreadtrum の 3Q 業績は前期比 137% 増と大きく売り上げを伸ばし、営業利益も 5 期振りに黒字を回復、明るい材料になっている。国慶節を控える 4Q では WCDMA の China Unicom を含め、各オペレータは次世代モデルに対するキャンペーンを実施することから、都市部での買い替え需要に弾みがつくものとみられる。

3Q では国内向け以上に輸出が増加した。ZTE、Huawei はローエンドに加えハイエンド Smart Phone に進出、欧州オペレータ向けにホワイトブランドでの供給をスタートさせている。ZTE はポルトガル TMN 向けにオペレータ仕様に基づいた Windows Mobile モデル Bluebelt II、Silverbelt を供給、Huawei は初の Android モデル U8220 を欧州 T-Mobile 向けに 10 月に出荷、T-Mobile Pulse ブランドで発売を開始した。T-Mobile Pulse は Android 初のプリペイドモデルになる。

インドでは 10 月に認識番号のない不正端末に対し厳しい措置を実施したためグレー端末が一掃され、正規ルートによる中国メーカーの輸出が増加した。インド向けは ZTE、Huawei などネットワークメーカーがインフラとバンドルした端末を輸出していたが、中堅メーカーも積極的に輸出攻勢を掛け、インド国内でのローエンドでの市場確立を狙い始めた。CDMA メーカー Coolpad は Reliance 傘下のディストリビュータと提携し、GSM/CDMA デュアルの独占契約を締結した。

国内市場に軸足を置く Tianyu、Changhong は一時的勢いを失ったが、徐々に輸出を増やしており、再度浮上を図るものとみられる。

台湾

台湾メーカーは Compal、Arima の ODM 受注減と Smart Phone メーカー HTC の低迷もあり、3Q 全体は前期比 9%の落ち込みを記録した。Motorola が中国 TCL を新たに ODM 先に加えたことも出荷減の要因になった。

ODM メーカーはローエンドから Smart Phone の受注が増えており、現在 Palm、Acer 向けに出荷が行われ、9 月には Palm の 2 機種目の Pixi の生産が始まった。2010 年からは LG も Smart Phone の発注を開始する見通しである。

Sony Ericsson が再度 ODM 発注を再開する観測も出ているが、2010 年以降は自社ブランド、ODM メーカーとも Smart Phone 拡大による収益性向上が事業戦略の柱になるものとみられる。

韓国

3Q の韓国メーカーは Samsung、LG とも堅調な端末出荷の伸びを示したが、中国を中心とした海外生産を拡大しており、韓国における端末出荷は抑制気味に推移した。

注目されるのは韓国国内需要の冷え込みで、需要は 6 月をピークに下降を続け、10 月の需要は 6 月の半減以下の規模まで落ち込んだ。オペレータの端末助成金削減が直接の要因になり、3Q における Samsung、LG の端末部門収益に多大の影響を与える結果となった。

インド

インドは 10 月末までに不正端末に対し新たに認識番号を付与、正式な端末として認可した。インド政府は 11 月 3 日に正規の番号のないものに対して通信遮断の措置を実施した。また紛争地域のカシミールではプリペイドの利用を禁止した。

注目の 3G 入札について 2010 年 1 月 14 日を入札日に決定した。今回で 4 回目の入札日の変更になる。ただ軍の周波数帯の開放問題が残っており、入札日についても依然流動的な要素も残っている。入札はインド全土の 22 サークル（通信区域）で各サークル 5 オペレータの認可決定になる。各 5 オペレータの内、国営の BSNL と MTNL には入札枠が確保される。同日までに軍の周波数帯問題が解決されていなければ、サークルによっては 2 社の認可の可能性はある。

2009年3Q(7-9月)報告書の目次

<ul style="list-style-type: none"> 1. 中国、台湾、韓国、インドの3Q動向4 1.1. 3カ国の端末出荷動向概況4 1.1.1. 中国5 1.1.2. 台湾6 1.1.3. 韓国6 1.1.4. インド6 1.2. 4カ国の加入推移7 1.3. 2009年4Q国別端末出荷見通し7 2. 中国8 2.1. 2009年3Qの端末出荷動向8 2.1.1. メーカー別出荷動向8 2.1.2. 国内、輸出別出荷推移9 2.1.3. メーカー別四半期出荷推移10 2.1.1. 端末プラットフォーム11 2.2. 参入各社の至近動向13 2.2.1. Nokia13 2.2.2. Motorola14 2.2.3. Sony Ericsson14 2.2.4. Samsung15 2.2.5. LG16 2.2.6. 国産メーカー動向16 2.2.7. 主要国産メーカーの出荷台数推移19 2.3. 加入推移22 2.4. 中国3G24 2.5. PAS(PHS)普及状況25 3. 台湾26 3.1. 2009年3Qの端末出荷動向26 3.1.1. メーカー別出荷動向26 	<ul style="list-style-type: none"> 3.1.2. 国内、輸出別出荷推移26 3.1.3. 台湾、中国生産拠点別出荷推移27 3.1.4. メーカー別四半期出荷推移27 3.2. 参入各社の至近動向28 3.2.1. HTC28 3.2.2. その他の台湾メーカー28 3.3. 端末メーカー四半期業績推移30 3.4. 生産委託の最新状況31 3.5. 加入推移32 4. 韓国33 4.1. 2009年3Qの端末出荷動向33 4.1.1. メーカー別出荷動向33 4.1.2. 国内、輸出別出荷推移34 4.1.3. 国内需要のメーカー出荷シェア34 4.1.4. メーカー別四半期出荷推移34 4.2. 参入各社の至近動向35 4.2.1. Samsung35 4.2.2. LG Electronics37 4.3. 加入推移39 4.3.1. オペレータ別加入推移39 5. インド40 5.1. インド国内市場40 5.2. 不正端末問題40 5.3. 3Gほか40 5.4. 端末メーカー動向41 5.5. 加入推移47 6. 参考 日本の四半期出荷推移48 7. 主要中国、台湾メーカーの表記一覧49
---	--